

<質問調査の結果《児童生徒質問と平均正答率とのクロス集計》>

<<基本的な生活習慣に関する質問>>

■朝食を食べる児童生徒の平均正答率

小学校	49.0	ポイント	中学校	42.6	ポイント
食べない児童より	15.1	ポイント 高い	食べない生徒より	0.5	ポイント 低い

■毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の平均正答率

小学校	49.5	ポイント	中学校	42.0	ポイント
同じ時間に寝ていない児童より	5.1	ポイント 高い	同じ時間に寝ていない生徒より	1.8	ポイント 低い

■毎日、同じくらいの時刻に起きている児童生徒の平均正答率

小学校	49.6	ポイント	中学校	44.2	ポイント
同じ時間に起きていない児童より	10.7	ポイント 高い	同じ時間に起きていない生徒より	11.3	ポイント 高い

■平日、SNSや動画視聴をするのが2時間以下の児童生徒の平均正答率

小学校	52.4	ポイント	中学校	42.1	ポイント
SNSや動画視聴しない児童より	5.9	ポイント 高い	SNSや動画視聴しない生徒より	0.6	ポイント 低い

<<学校でのコミュニケーションに関する質問>>

■学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の平均正答率

小学校	50.3	ポイント	中学校	41.6	ポイント
楽しいと思わない児童より	13.6	ポイント 高い	楽しいと思わない生徒より	5.0	ポイント 低い

<<学習習慣に関する質問>>

■平日、1日1時間以上家で学習する児童生徒の平均正答率

小学校	50.8	ポイント	中学校	41.1	ポイント
1時間未満の児童より	4.4	ポイント 高い	1時間未満の生徒より	1.8	ポイント 低い

■家に本が10冊以上ある児童生徒の平均正答率

小学校	50.2	ポイント	中学校	45.3	ポイント
0～10冊未満の児童より	6.4	ポイント 高い	0～10冊未満の生徒より	4.8	ポイント 高い

<<学習に関する関心・意欲・態度に関する質問>>

■算数・数学が好きだと思う児童生徒の平均正答率

小学校	51.0	ポイント	中学校	44.5	ポイント
好きではないと思う児童より	7.0	ポイント 高い	好きではないと思う生徒より	3.2	ポイント 高い

■算数・数学の授業の内容がわかる児童生徒の平均正答率

小学校	50.8	ポイント	中学校	43.9	ポイント
わからないと思う児童より	11.2	ポイント 高い	わからないと思う生徒より	2.9	ポイント 高い

■算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う児童生徒の平均正答率

小学校	47.9	ポイント	中学校	42.7	ポイント
役立つと思わない児童より	2.1	ポイント 低い	役立つと思わない生徒より	1.5	ポイント 低い

■課題解決に向けて、自分で学び方を考え、工夫して取り組む児童生徒の平均正答率

小学校	51.1	ポイント	中学校	47.1	ポイント
取り組んでいると思わない児童より	18.3	ポイント 高い	取り組んでいると思わない生徒より	15.6	ポイント 高い

■自分の考えを発表するとき、相手に上手く伝わるよう工夫をしていると思う児童生徒の平均正答率

小学校	50.1	ポイント	中学校	44.3	ポイント
工夫していると思わない児童より	8.5	ポイント 高い	工夫していると思わない生徒より	3.8	ポイント 高い

■話し合う活動を通じて、考えを深めたり新たな考え方に気付くことができる児童生徒の平均正答率

小学校	50.5	ポイント	中学校	43.6	ポイント
気付くことができると思わない児童より	15.0	ポイント 高い	気付くことができると思わない生徒より	2.4	ポイント 高い

■分からないことやよく知りたいたいことについて自分で学び方を考え工夫している児童生徒の平均正答率

小学校	51.0	ポイント	中学校	43.4	ポイント
工夫していると思わない児童より	12.7	ポイント 高い	工夫していると思わない生徒より	2.6	ポイント 高い

<<規範意識や自己有用感に関する質問>>

■自分には、よいところがあると思う児童生徒の平均正答率

小学校	50.5	ポイント	中学校	43.5	ポイント
そう思わない児童より	10.9	ポイント 高い	そう思わない生徒より	3.9	ポイント 高い

■将来の夢や目標をもっている児童生徒の平均正答率

小学校	48.8	ポイント	中学校	42.1	ポイント
もっていない児童より	3.3	ポイント 高い	もっていない生徒より	1.7	ポイント 低い

■人が困っているときに進んで助けることができる児童生徒の平均正答率

小学校	48.9	ポイント	中学校	41.9	ポイント
そう思わない児童より	6.0	ポイント 高い	そう思わない生徒より	6.4	ポイント 低い

■いじめは、どんな理由があってもいけないと思う児童生徒の平均正答率

小学校	48.2	ポイント	中学校	42.5	ポイント
そう思わない児童より	9.3	ポイント 低い	そう思わない生徒より	6.7	ポイント 低い

■人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の平均正答率

小学校	48.5	ポイント	中学校	43.0	ポイント
そう思わない児童より	13.3	ポイント 高い	そう思わない生徒より	12.0	ポイント 高い

<<地域・社会との関わりに関する質問>>

■地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の平均正答率

小学校	48.9	ポイント	中学校	43.2	ポイント
そう思わない児童より	4.4	ポイント 高い	そう思わない生徒より	1.4	ポイント 高い

■新聞を読んでいる児童生徒の平均正答率

小学校	60.8	ポイント	中学校	21.1	ポイント
読んでいない児童より	13.7	ポイント 高い	読んでいない生徒より	21.9	ポイント 低い

【児童生徒質問からの考察】

○基本的な習慣に関すること

- ・質問「朝食を毎日食べていますか」に「毎日食べる」と回答した児童は79.7%、生徒が66.9%。昨年度と比較して小学校・義務教育学校前期の割合は11.2ポイント上昇傾向にあるものの、全道・全国平均に比べて低い傾向にある。
- ・朝食の摂取の状況と学力の差異については、朝食を摂取している児童の方が正答率が高い傾向にある。
- ・就寝時間や起床時間を維持している児童生徒の割合は、昨年度、全道・全国に比べて低い傾向にある。就寝時間を維持している児童生徒の割合については、全道・全国に比べて10ポイント程度低い傾向にある。
- ・就寝時間や起床時間の状況と学力の差異については、就寝時間や起床時間を維持している児童生徒の方が高い傾向にある。
- ・平日に2時間以上スマートフォン等でSNSや動画視聴などをする児童生徒の割合は、全国に比べて15ポイント程度高い傾向にある。4時間以上SNSや動画視聴などをする児童は全国比で17.9ポイント、生徒は全国比で28.2ポイント高い傾向にある。
- ・平日のSNSや動画視聴の状況と学力の差異については、平日2時間以上SNSや動画視聴をする児童の方が低い傾向にある。

○学校でのコミュニケーションに関すること

- ・学校に行くことを楽しく感じる児童の割合は、昨年度と比較して上昇傾向にあるが、生徒の割合は減少傾向にある。
- ・学校の楽しさと学力の差異については、学校に行くのが楽しいと感じている児童の方が高い傾向にある。

○学習習慣に関すること

- ・わからないことや詳しく知りたいことについて自分で学び方を考え、工夫している児童生徒の割合は全国・全道より低い傾向にあり、学力の差異については自分で学び方を考え、工夫する児童の方が12.7ポイント高い傾向がある。
- ・1日1時間以上家庭で学習する児童生徒の割合は、昨年度より児童の割合が上昇したものの、生徒の割合は減少傾向にある。全道・全国と比較して児童は13ポイント、生徒は31ポイント低い傾向にある。
- ・1日1時間以上の家庭学習と学力の差異については、1日1時間以上の家庭学習をする児童の方が高い傾向がある。

○学習に対する関心・意欲に関すること

- ・算数を「好き」「よくわかる」と感じている児童の割合が、全道に比べて2ポイント程度高い傾向にあるが、全国比、昨年比では減少・低い傾向にある。数学では昨年比、全道・全国比で減少・低い傾向にある。
- ・算数・数学について、「好き」「よくわかる」と感じている児童生徒の正答率が高い傾向にある。
- ・課題解決に向けて、自分で学び方を考え、工夫して取り組めた児童の割合が昨年度比、全道・全国比で上昇・高い傾向にある。学力の差異については、課題解決に向けて、自分で学び方を考え、工夫して取り組めた児童生徒の方が高い傾向にある。
- ・自分の考えを発表するとき、相手に上手く伝わるよう工夫をしている児童の割合が昨年度比、全道・全国比で上昇・高い傾向にある。学力の差異については、自分の考えを発表するとき、相手に上手く伝わるよう工夫をしている児童生徒の正答率が高い傾向にある。
- ・話し合う活動を通して、考えを深めたり広げたりできていると実感している児童生徒の正答率が高い傾向にある。

○規範意識や自己有用感に関すること

- ・自分にはよいところがあると思う児童生徒、人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の正答率が高い傾向にある。
- ・ほとんどの児童生徒が、いじめはどんな理由があってもいけないと思っているが、昨年度比、全道・全国比では減少・低い傾向にある。

○地域・社会との関わりに関すること

- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の正答率が高い傾向にある。

☆今後に向けて

- 授業の中で「課題解決の選択肢」や「対話・話し合いの場」を工夫し、自ら考え表現する楽しさを実感させます。
- 児童生徒一人一人の良いところを認め合い、自己有用感や地域を愛する心を育む体験活動・地域連携学習を推進します。
- 「どんな理由があっても、いじめを絶対にいけない」という理解のもとで思いやりと高い規範意識を育む道徳教育・生徒指導を徹底します。

根室市教育委員会では、子どもたち一人一人が「学びたい」「学校が楽しい」と思える環境を整え、意欲を持って学習に取り組める授業改善を加速させてまいります。子どもたちが将来の根室を担い、変化の激しい社会を力強く生き抜くためには、学校・家庭・地域・行政が目標を共有し、共に手を携えて育てていくことが不可欠です。ご家庭、地域の皆様には、毎日の規則正しい生活習慣づくりや、子どもたちの安全の見守り、地域行事・学習活動へのあたたかいご支援と参画をお願いいたします。根室の未来を拓く子どもたちの学力向上とすこやかな成長に向け、全力を尽くしてまいります。